

市議会議員22人の考え

富士宮市が富士山の資源を活かし、2032年に向けて持続可能な街を目指すべく策定した「第6次富士宮市総合計画基本構想」。これに対し、市議会議員22人の考えをききました！



第6次富士宮市総合計画の策定状況



近藤 千鶴

将来都市像
「幸せ」も大事だが、「挑戦」・「変化」等の将来へ期待する表現でもよかったのでは。



佐野 和彦

人口減少社会の施策拡充、各行政区の課題解決、産業構造の変化に対応できる富士宮の創造に期待。



仲亀 恭平

若者支援は一人ひとりに合わせて。
生活の不安を取り除き、富士宮に住みたい人を増やそう。



平下 尚己

「する」スポーツだけでなく、「みる」「ささえる」スポーツ環境を整えていくことが示された。



赤池 弘源

みなさんと進める将来設計図！
お互いを理解し支え合うまちづくりを進めていきたいと思う。



中野健太郎

人口減少の中、将来に向け何をすべきか逆算手法を用いたことは評価する。危機感持ち政策推進を。



齋藤 和文

U・I・Jターナー者就業支援事業を継続と、大学生への直接関与の具体的施策が最も必要と考えている。



山藤 陽子

幸福、笑顔、安心の輪を未来へつなげる。人に寄り添い、声を聴き、声が届く富士宮市に期待する。



稲葉 晃司

時代の流れが速い中で総合計画が10年1スパンで作られていくことに疑問を感じる。



臼井由紀子

人口減少を前提に子育て・教育・仕事・くらしを総合強化する持続可能なまちづくりを進めている。